至仏山山スキー報告２

【山域】尾瀬・至仏山
【日程と天気】2018 年 4 月 21 日　　晴れ
【メンバー】CL 菊池・SL 石橋・加藤・井上(里)・会員外１名
【行程】
千葉―戸倉駐車場―バス－鳩待峠 8：30―小至仏山直下―11：38 至仏山山頂 12：12―大斜面―悪沢－13：23 渡渉―鳩待峠まで登り―14：00 鳩待峠―バス－戸倉駐車場―帰葉

・例年４月のＧＷ前半の１週間前に、鳩待峠までの道路が開通、わが会の山スキージャンルは恒例の至仏山山スキーを楽しんでいる。
１昨年は著しい寡雪のため、至仏山山スキーは上部の標高差 300m程滑走し登り返して往路に戻り、藪漕ぎに苦労した思い出がある。昨年も同時期に予定していたが､多雪のため開通が１週間遅くなり、

浄土平に急遽転進、今回は 2 年ぶりの至仏山山スキーであった。3 月以降の早い融雪で例年より少ない残雪であるが、スタート地点はこんな感じで笹が出ている部分もあるが、シール登行には問題ない。今回は 2006 年に茂倉谷山スキーでお会して以来、山スキーＭＬの知人・群馬のＳさんと初めての・同行である。

・当日の沼田の最高気温は 26.5℃と夏日、水分補給を十分行うようメンバーにアドバイス、出来るだけ軽装でスタート、気持ちよいブナ林を、ルンルン気分でハイクアップ。小至仏、至仏山の大斜面が見えてきました。テンションアップです。尾瀬ヶ原と燧ケ岳が俯瞰できるようになり、歓声が上がりました。気温が高く、半袖のメンバーもいます。

オヤマ沢源頭部あたりは自然のハーフパイプ、いつもボダーが楽しんでいます。小至仏を望むオヤマ沢田代付近です。

早くも木道が出てきています。辛うじて左側を通過できましたが、右側に迂回するよう誘導ポールがあります。

小至仏山山頂下は、気温が低いときは雪面が固く緊張する急斜面のトラバースですが、今回はかなりの高温で不安はない。下地はしっかり締まっており、横への滑りもあま

りなく、シールはよく効きました。

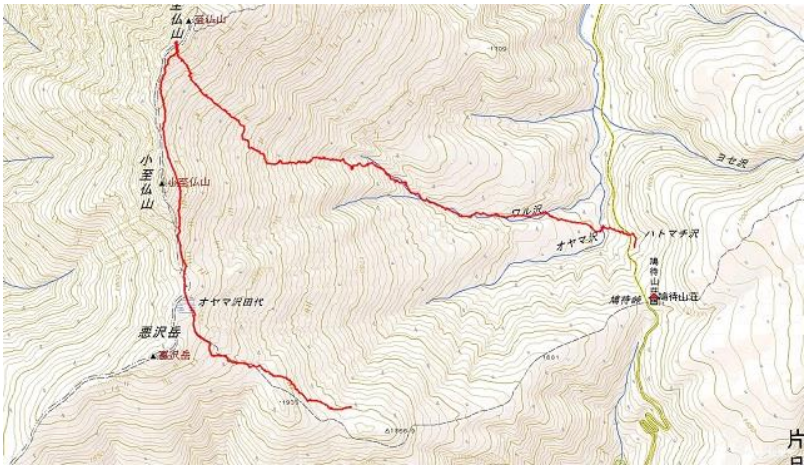
急斜面トラバースも終盤、至仏山山頂まであとわずかです。滑走が楽しみな素晴らしい大斜面の向こうに尾瀬ヶ原と燧ケ岳が見えます。山頂は大勢の人々で賑わっています。スタートして 3 時間 15 分、山頂にて記念撮影です。

西側は切れ落ちた岩壁です。尾瀬ヶ原は残雪が少なく、もうすぐ地肌が見えそうな所もあります。上越の山々です。

・さあお楽しみの滑走です。スタート前の記念撮影、やや緊張の面持ちのメンバーもいます（12：12)。素晴らしい大滑走です。高温ですが、下地が締まり、滑りやすい極上ザラメです。やや緊張してスタートしたＩさんも、上達した素晴らしい滑りを見せていました。大斜面滑走は超気持ち良いですね！！！

ワル沢源頭部に向かって滑走していきます。大斜面は標高差 450m程、表面の雪質は重くなってきましたが、下地がしっかり締まっているため、最後まで滑りやすい状況でした。背丈の高いシラビソが出てきた源頭部の上で休憩し、渡渉や、登り返しを覚悟して先行者のシュプールを追ってワル沢に滑り込んみました。

複雑な地形をワル沢に沿って進むと既に割れて水流が出ているところがかなりある。右岸・左岸を慎重にヘツルように、横滑りを交えながらゆっくり進む。今年はかなり残雪が少ないのですね。こんなところを不安を抱きながらを通過しました。終盤近く、スキー板を外して右岸に移動するとこ

ろです。

最後はやはり渡渉が待っていました。飛び石の上をバランス崩さず渡るのは高齢者にはかなり難儀します。流れがやや急ですが、浅めのところはスキー靴の深さ位であり、割り切って水の中に片足付けて渡る方が安定しました。最後の鳩待峠への登りもあまり苦にならず、変化に富んだ楽しい至仏山山スキーツアーはフィナーレを迎えました。